



「私」の勉強法 その十一

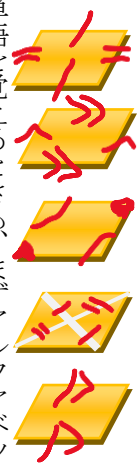
数学先行型勉強法

「私は、初めて会う生徒に、「好きな教科は何か」をよく尋ねます。返答は様々です。「では二番目は？」「三番目は？」と五教科で一位から五位まで順位をつけてもらいます。そして、その理由はなぜかと尋ねると好きな教科は、「興味があるから」「点数が取れるから」など答えてくれます。反対に嫌いな教科は「わからないから」「やっても意味がないと思うから」などです。だから何だという話ではなく、興味本位で聞いています。なぜなら、中学生の私自身に同じ問いをしたら何と答えるか考えてみたことがあるからです。好きな教科は、数学と即答するでしょう。理由は答えが一つだけ、そこに至るまでいろいろな解法があつて面白いからです。その次は、英語、国語と続き、理科、社会という順番です。ただし、国語と理科の間にはものすごい差があります。さらにその後の理科と社会の差は計り知れないほどの差があります。正直、理科は嫌いでしたが、社会は興味すらありませんでした。理由は暗記が嫌い、覚えても意味がない、です。本当に何を言っていたのでしょうか。それでも高校受験は五教科で勝負しなければなりません。では、どのように勉強をしたのか、ご紹介します。

決して全員にオススメとは言えないですが、実際にやっていた方法です。

① 覚えるものの個数を先に覚える。

これも数学が好きだからなのでしょう。数字先行型です。例えば中学2年生の数学の「平行四辺形になるための条件」を覚えるとき、まずその条件がいくつあるのかから始めます。この条件は五つあります。それを書き出したとき、五つあるということ覚えていて過不足なく書くことができました、これで正しいのだ、と私は安心感を得ます。



長い英単語を覚えるときも、まずアルファベットの文字数を覚えます。例えば「important」の単語は「重要」ですよ。これは九文字です。書いたあとに、確認で数えます。覚えている文字数と一致していれば大丈夫。他にも漢字の部首「ころもへん」と「しめすへん」で困ったときにはその漢字の総画数を覚えます。今考えると、時間がかかって無駄に覚えていたものが多いですね。ただ、当時はそれが一番覚えやすく、自分にフィットしていたのは間違いないです。私のようにすべてを数えなくても、覚える事柄の個数は覚えてみてもよいのではないのでしょうか。

② ひたすら書く

個数を覚えていても肝心の中身を覚えられなければ点数にはつながりません。そこで、私は、覚えるべき内容をひたすらノートに鉛筆で書きました。何度も何度も書きました、数えながら(笑)。ただし、書くだけでなく、書いている文字を呪文のようにぶつぶつ唱えながら書いていました。手で書き、目で見て、口で話して、耳で聞いて、全神経を覚えることに集中していました。でも、みなさんも経験はあると思いますが、何度か書いていると自然と覚えてしまうのです。今の時代、いろいろなものがデジタル化されている中で、ノートに

鉛筆でひたすら書くというアナログな敬遠されがちですが、これはこれでありだと思います。

中学生の私と同じように理科、社会の暗記で困っているみなさんへ。あなたが好きな英語や数学も単語・構文や解法を暗記しないと、点数にはつながりません。暗記が多いから、苦手だからといって避けて、後回しにしていることは何もありません。直前で困った私のようにならないためにも、早めに手をつけることが大切です。

中学一年生、二年生は学年末テストまで、約一か月です。「あなたの勉強術」をみつけて結果が出ることを願います。ただ、その勉強術は**「まず」「真似ることから」**です。困ったときには、周りの先生やご家族の話を素直に聞いて参考にしてみてください。(佐々木)

「私」の勉強法 その十二

高寺式勉強法

●勉強とは何か

世の中には勉強が得意な人もいれば不得意な人もいるし、好きな人もいれば嫌いな人もいる。大切だと思っている人もいれば無意味だと思っている人もいるかもしれない。

では、そもそも勉強とは何なのか。それを真剣に考え、理解しないことには勉強が上達することはないのではないかと私は考えている。

●私が考える勉強とは

私が考える勉強とは、「知らないことを知り、出来ないものを出来るようにすること」である。例えば「7×3」の計算が出来なかった人が計算方法を学び、練習して出来るようになったらそれが勉強だし、江戸幕府五代将軍の名前を言えなかつ

た人が言えるようになったらそれが勉強だと私は考える。

ここで重要なのは全ての勉強の始まりが「知らない」「わからない」「出来ない」であること。最初から「知っている」「わけがないし、最初は「わからない」状態で構わない。自分が「出来ない」ことに一度も出会ったことがない人は、ただ何もやったことがないだけの人だ。

●私たちの勉強法① 発見する

勉強の第一歩として、まずは自分の「知らない」「わからない」「出来ない」を見つけなければならぬ。では、どのようにしてそれらを見つけるのか。答えは簡単だ。**「まずは問題を解けよ」**。×がたたくさんついていいから、というよりむしろ、×をたたくさんつけるために、四の五の言わずに問題集やワークを解いてみるのだ。解いたらすぐに答え合わせをしよう。そして×がついたら是非とも喜んでほしい。その×を○に変えることが勉強であり、その先に成長が待っているからだ。

●誰かの勉強法① 現実逃避

問題集やワークに×をつけるのを嫌がって教科書で調べながら問題を解いてしまう人がいる。本人は真面目に一生懸命勉強しているのだから、実はあまり意味がない。また、答え合わせを一切せずにただひたすら問題を解くだけの人もいる。

「勉強＝問題を解くこと」だと思っているのかもしれないが、これも意味がない。いずれの勉強法も、「出来ない」ものが「出来る」ようになることではないからだ。「答え合わせ」は心理的負担が大きい。自分に×をつけるのは誰だって嫌だろう。しかし、そこから目をそらしてしまつたら貴重な成長の機会を逃がしてしまうことになる。だから勇気をもって答え合わせをしよう。**しっかりと○と×**

をつけよう。

●私たちの勉強法② 理解する

問題を解いて答え合わせをしたら、ここからが本番だ。×だったものを○に変えるため、まずは内容を理解する必要がある。そのためにじっくりと時間を使う。問題を解くときは出来る限り速く、答え合わせからはじっくりと丁寧に。この緩急が重要だ。数学の計算問題や英語の文法問題であれば、問題を解くための着眼点と手順とゴールを確認する。用語を答える問題であれば、その用語の意味を確認する。教科書や単語帳や辞書はここで活躍する。我々講師の出番もここにある。是非ともフル活用して内容を理解してほしい。

●誰かの勉強法② 丸暗記

意味も分からず気合と根性で丸暗記しようとする人もいる。読み方すらわからない言葉を何度も繰り返しノートに書いて文字の形だけ覚えてたところで一体何の意味があるだろう。何かを理解するには手間と時間がかかる。カロリーを消費する必要がある。それを億劫に感じて考えることを放棄してはいけない。地味で面倒くさいことほど、実は大切だったりする。

●私たちの勉強法③ 記憶する

出来なかつた問題について充分に理解することが出来たら、理解したことを記憶しなければならぬ。理科や社会はもちろん、数学でさえ解き方を記憶しておかなければ時間の経過とともに問題が解けなくなってしまう。ではどうやって記憶すればいいのか。記憶のコツは「何度も繰り返すこと」である。好きな人の顔は何年たっても簡単に忘れられない。それは何度も何度も脳内再生されるからだ。一時間後、一日後、一週間後、一か月後に覚えたことを思い出すとすることで記憶は強

化される。だから今日一日で学習したことを寝る三十分前に十五分だけ復習する。次の日、勉強をスタートする前に前日勉強した内容を十五分だけ復習する。毎週日曜日の夜は直近の一週間で学習した内容を振り返る時間を三十分作る。月末に直近一か月の学習内容を一時間だけ振り返ってみる。このように**定期的に記憶をメンテナンス**することでせつかく手に入れた財産を失わなくて済むのだ。

●誰かの勉強法③ 一度だけ

数学の挑戦は授業を受けた日にやらない方がいい。漢字や英文の宿題は塾に来る直前にやらない。五セットを一日で終わらせるのもよくない。なぜかというとなんか勉強したことになつていないからだ。数学の挑戦は授業を受けた翌日に、授業の内容を思い出しながら解く。漢字や英文は二日に分けて授業の前日までに仕上げる。そうすることで「睡眠を挟んで繰り返す」学習が実践できるので、同じ勉強量でも学習効果が格段に違う。勉強は「どのように」やるかだけでなく、「いつやるのか」も非常に重要である。

以上が私が創学舎 我孫子教室で繰り返し伝えている「私たちの勉強法」である。これらが実践できているかどうか、ぜひ振り返ってみてほしい。(高寺)

「私」の勉強法 その十二 記憶術五つのテクニック

検定・資格試験合格の千個超えを夏に果たした、片岡です。今回は、私が様々な試験にスピード合格するのに用いている記憶術を、中学社会の内容を例に五つ紹介しようと思います。

「覚えたはずなのに、テストで点が取れない」という人に共通の問題として、個々の事項がバラバラに記憶庫に収納されていて、関連付けができていない、という点があります。記憶のコツはマツチングさせて覚えることです。

A 圧縮する

たとえば、三権分立を唱えた啓蒙思想家は誰かという問題。ルソー、ロック、モンテスキュー。個々の名前は出てくるのに、誰か特定できないという人は、こうしてみてください。

「三権分立を唱えたのは、モンテスキュー」、略して「サンキュー」(笑)。もちろん、「三三が九」でも「坂本九」でもOK。「法の精神」という書名までセットにするなら「三軒訪問」(三権分立・法の精神・モンテスキューを圧縮)というのもあり。

B 一部に注目する

たとえば、五・一五事件と二・二六事件、どちらが先かという問題。真ん中の数字に注目すると一↓二ともう順番が書いてある(一!)。ついでに犬養毅が暗殺されたのはどっちという問題に対しては、一を英語でワンと読めば、ワンちゃん(犬)暗殺は五・一五事件の方だと思えます。

なお、一部というのは一字とは限りません。たとえば、よくごっちゃになるのが、縄文時代の「土偶」と古墳時代の「埴輪」。縄文と土偶の字の中に共通する「田」、古墳と埴輪に共通する「土(つちへん)」に注目して、つなげておけば大丈夫。

C セットにする

この土偶と埴輪のように、紛らわしい箇所がテストでは問われます。そういう類出事項はセットにして、まとめて覚えましょう。たとえば、足利義満と足利義政。「二部に注目する」技で、義満と義政の一字をチェック。三代将軍の方が義満。「義

三つ」と三代目であると名乗っていますね。因みに室町幕府だけでなく、鎌倉三代は「源実朝(三ねとも)」、江戸三代は「徳川家光(家三つ)」とみな三代目と名乗っています(笑)ので、まとめて覚えておきましょう。

D ストーリーをつくる

さて、足利義満について覚えるべきことは三つ。南北朝合一、日明貿易、金閣です。これをばらばらではなく、南北朝合一(戦乱が終わる)↓(国内がまとまり、目が外へ向く)↓明と貿易↓(もうかる)↓豪華な金閣↓満足という風の一つの流れとして押さえておきます。このとき、足利義政の方も、政治的に無能↓応仁の乱(戦乱が始まる)↓国内分断され、銀閣に引き籠るといようにストーリー化し、義満と対比してセットにしておきましょう。

E イメージ化する

徳川綱吉の「綱」の先に「犬」が繋がれている「絵をイメージすれば、生類憐みの令につながります。勘合貿易の相手国は、金閣のキラキラなイメージから「明るい」の「明」だという風に思い出せます。それに対して、モノトーン(白黒)の銀閣は、水墨画とセットにし、白黒⇨書道⇨書院造が思い出せるようにしておきましょう。扇状地と三州、州の字の中の点が泳ぎ出し「さんずい」に変わる想像をすれば、河口や海に臨む方が三州州と思えます。このように言葉を変換しておくと、鮮やかな記憶が可能になります。

以上は記憶術の初歩に過ぎませんが、こうした技法を使って覚えたことは容易に長期記憶に収納されます。試してみてください。(片岡)

